

■ 事業のセールスポイント  
 町内人口の200倍(年間80万人)の観光客が訪れ、防災道の駅指定の「道の駅すさみ」を中心に、大規模災害時を想定し、避難所や道の駅との物資供給依頼がデジタル化され、自動化された効率的な物品配送による防災対策を構築。本事業は内閣府申請済の「南紀熊野スーパーシティ構想」と連携し、南紀熊野・全国エリアへの展開を目指す。



■ 対象区域の概要

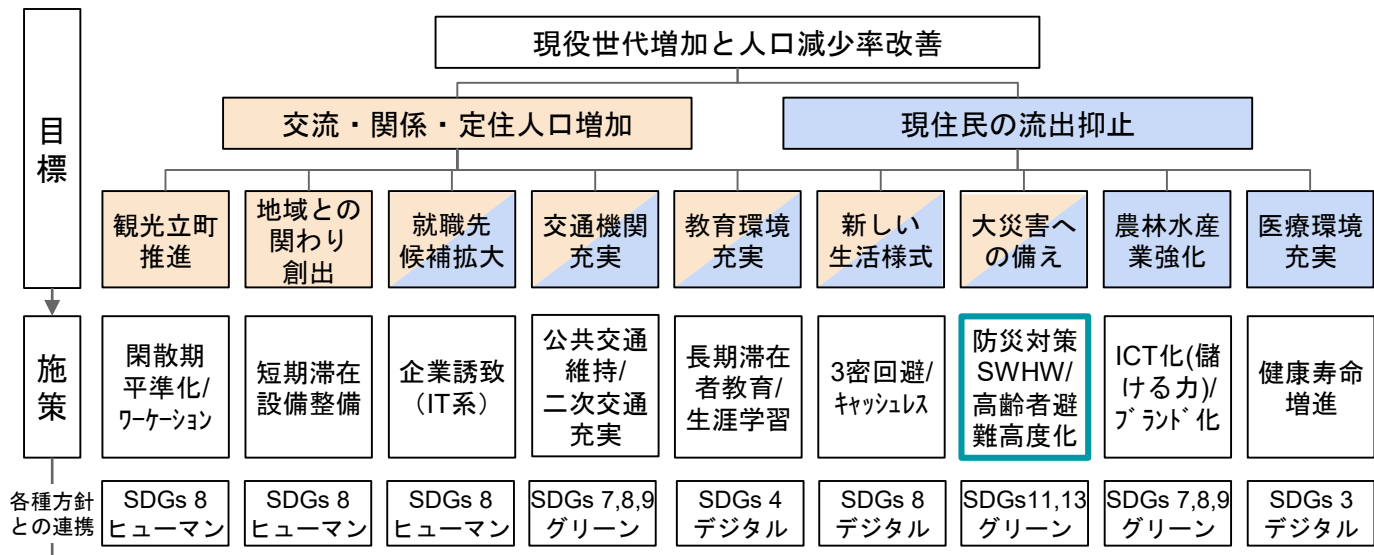
- ・ 名称：和歌山県すさみ町
- ・ 面積：174.45km<sup>2</sup>
- ・ 人口：3,736人  
 (令和3年6月30日現在)
- ・ 主要産業：農林漁業、観光業

■ 対象区域のビジョン

- ・ ワークション推進等で関係人口増加、住民化促進
- ・ 社会インフラ整備と大規模災害対策で住民流出抑止

■ 本事業全体の概要

「すさみ町まち・ひと・しごと創生総合戦略」をもとに策定したスマートシティ戦略



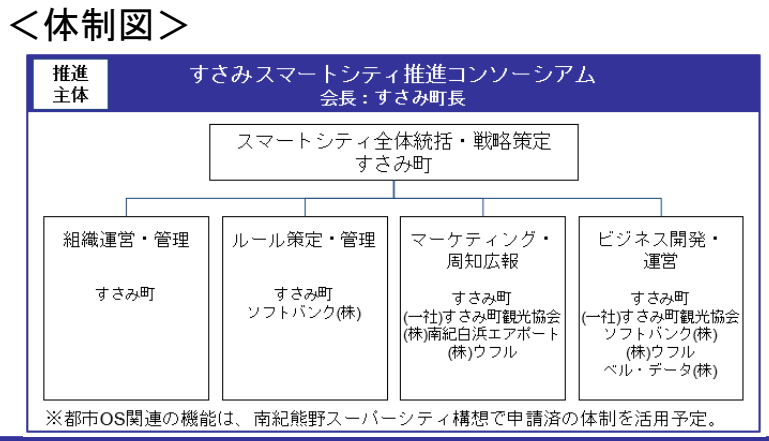
※上段：SDGsの17の目標、下段：まち・ひと・しごと創生基本方針2021「地方創生の3つの視点」



## ■スマートシティの目標

- <スマートシティによる地域全体目標>
- ・観光客数の増加(令和元年達成の年間観光客数100万人へ令和3年度引き戻し、令和4年以降で年率10%増加)
  - ・関係人口の増加(令和6年までに企業誘致1件以上)
  - ・住民化の促進(令和6年までに移住件数10世帯以上)
- <本事業における目標>
- ・避難所運営者と行政の利用継続意向率90%以上
  - ・ドローン配送における配送物品重量5kg以上かつ無人地帯における補助員なしでの自動航行成功

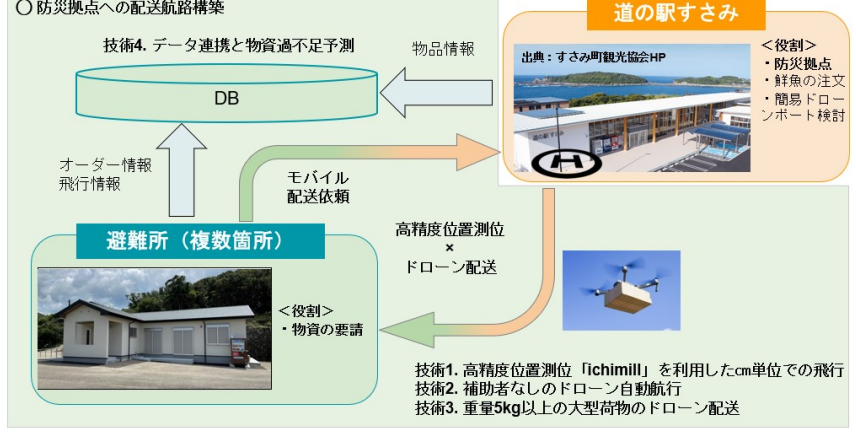
## ■運営体制



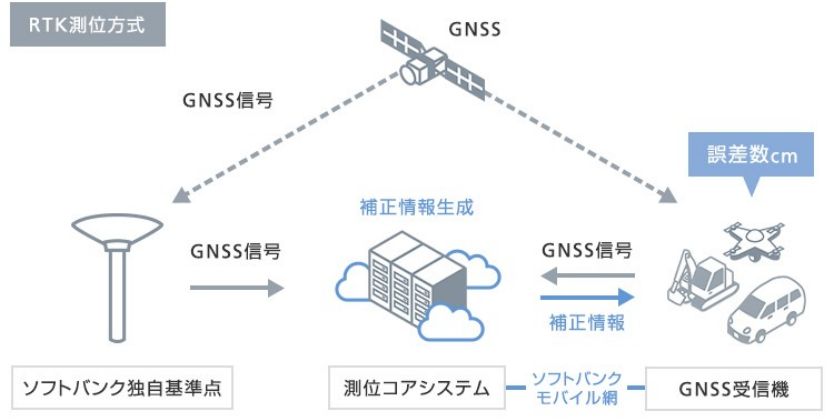
## ■導入技術

1. 高精度位置測位「ichimill」を利用した設定ルートを高精度で航行するドローン
2. 補助者なしのドローン自動航行
3. 重量5kg以上の大型荷物のドローン配送
4. データの連携と物資過不足予測

### <実証実験図>



### <ichimill概要図>





# 事業将来像

本事業では、大規模災害への備えとして「孤立集落発生(生活集落が分散していることによる)」「長期化する災害対応(行政の人手不足による)」の課題に対して取り組む。主な取り組みとして、防災道の駅に指定された「道の駅すさみ」を中心に避難所等への支援物資配送を、配送注文アプリと自動航行ドローンにより行い、防災対応の高度化と自動化を目指す。また、避難所での物資過不足予測にも取り組む。

